

発達に違いのある子どもたち 発達に違いがある子の「こだわり」

自閉症スペクトラム障害（以下ASD）のお子さんの、いくつかの特性の一つとして「こだわり」があります。回るものを見つめる、車のおもちゃを並べる、蛇口から出る水を見続ける、車に乗る時、降りる時に同じ方法でやりたがる、お店のマークやロゴに執拗に興味を持つなど、そのことに、子どもの心が囚われているような状態のことを言います。

「こだわり」の意味を辞書で調べてみると、「①ささいなことを必要以上に気にすること。拘泥（こうでい）。②細かな点にまで気を使って価値を追求すること。③なんくせをつけること。文句をいうこと。（明鏡国語辞典）」とあり、世の中のほとんどの人がこの「こだわり」を持ち、生活しているのではないかと思います。

A君のこだわり

月に2回、まいすてつぷを利用する2年生のA君。お店のマークやロゴに関する知識は豊富で大人も顔負けです。A君は、朝起きてから寝るまでの生活パターンに、急な予定の変更や環境の変化があると混乱し、とても

不安になります。学校がある平日や土日は1週間の流れとして理解できていますが、長期休暇になると、学校がいつ始まるのかもわかりにくく、冬休みは特に、テレビ番組が通常のものごとごとと変わってしまったり、普段は家にいない人が家にいたりして、A君は今年の冬休みに不安がとても強くなり、時折大声で泣いてしまったりしたそうです。

A君は、不安が強くなると泣いたり大声を出したり、いわゆるパニック状態になることがあります。そのような時、以前から続く「こだわり」がさらに強くなったり、「こだわり」の対象が増えたりします。A君は冬休みに入り、水道の蛇口から水をチョロチョロと出し、それを眺めている時間がとても多かったです。これらの「こだわり」の変化はある意味、自分の考えや感情をうまく表現することのできないASDのお子さんの「信号」とも言えます。

「こだわり」を理解する

通常、人には喜怒哀楽や心配、困惑、不安、安心などの感情を相手の

表情から読み取ったり、表現したりする能力がありますが、ASDの人の脳は、表情を真似すること、気持ちを表情で表すこと、他の人の表情から気持ちを読み取ることなどの機能が生まれつき弱いという特性があります。相手に気持ちを伝えたくても表現する手段がとても限られるので、たとえ表情は穏やかであっても、本当はとても困っているということもあります。A君の表情のみから気持ちを推測することは、読み誤りの原因となります。関わる周囲の人は、A君の行動や取り囲む周囲の状況などから気持ちを推測する必要があります。

A君本人の立場から見ると、いつものスケジュールや周囲の環境が変わるといことは、私達の立場に置き換えれば、いつもいる我が家から、突然ことが通じないような知らない世界に迷い込んでしまったくらいの衝撃があります。そこで落ち着くためには、私達も何か美しいものを見つめたり、和やかな音を聴いたり、風に吹かれたりして、不安な気持ちを一時停止して心を落ち着けようとするのではないのでしょうか。A君が行う「こだわり」には、そのような役割もあるのです。

不安を和らげるためには、自分が夢中になるものを見つけ、触ったり眺めたりして気持ちを楽にする必要があります。これらの行為は不安な気持ちを一時停止する作用もあります。何とかこの不安を切り抜けようとする努力

とも言えます。その「こだわり」の行為を続けることで、生活に差し支えたり、他の人に迷惑がかかったり、本人が体調を悪くしてしまうなどデメリットが大きい場合は、何か他のものにうまく導く必要がありますが、そうでない場合は、ある程度までは見守っていただきたいと思います。

周囲の大人の役割

典型的な発達を遂げた多数派の人（いわゆる普通の人）側の世界に、発達に違いのある子ども達を無理に引き込もうとしても、もともと違う世界を持つ子ども達には刺激が強すぎて、慣れていくのに非常に時間を要します。周囲の大人がまずは目の前の子どもの「違い」に気づき、その子が見ている世界を想像し、わかろうとすることから、より良いコミュニケーションは始まるのだと思います。その子の存在を「障がい」にする要因は、こちら側にもあるのです。



わからなくても、ここはある/
山登敬之/日本評論社